



# 西眼科だより

第7巻2号

(季刊誌)

2005年12月発行

編集責任者：倉橋美雪

Nishi Eye Hospital

西眼科病院 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 4-14-26 TEL: 06-6981-1132

ホームページ <http://www.nishi-ganka.or.jp> e-mail [office@nishi-ganka.or.jp](mailto:office@nishi-ganka.or.jp)

## 加齢黄斑変性の新治療法

「加齢黄斑変性」は欧米先進国そして我国において、成人(特に50才以上)の失明原因の第一位であり、多くは0.1以下に視力が低下します。完全に失明することは極めて稀で多少の視力は残りますが、仕事ができる程ではないので「社会的失明」と呼ばれます。病名が示すとおり加齢が原因ですので、年を取れば誰にでも起こりうる病気です。通常は両眼性ですが、片眼のみの場合もあります。加齢以外の原因は明らかにされていませんが、喫煙は危険因子の一つとされています。その発症を前もって抑えることができないため、現在でも様々な治療法が検討されています。



初めて来院された患者さんには問診・視力検査・眼底検査・眼底カメラ等の検査を行います。一割くらいの患者さんには通常のレーザー治療が適応します。

現在、新治療法として こうせんりきがくりょうほう 光線力学療法 と けいどうこうおんねつりょうほう 経瞳孔温熱療法 の2種類があります。

**光線力学療法** (PDT: photodynamic therapy)

欧米では既にFDAの認可を受けており、日本でも昨年5月に厚

労省の認可が下りた新治療法です。特殊な光に反応する薬剤を体内に注射した後、病変部にレーザーを照射する治療法です。弱いレーザーによって薬剤を活性化させ、正常網膜へのダメージを抑えながら新生血管を退縮させます。治療後は数日間、太陽光線を避ける必要があります。また継続的に行う治療法で初回の治療実施後は3ヶ月ごとに検査を行い、必要に応じて再度、光線力学療法を行います。

### **経瞳孔温熱療法 (TTT: transpupillary theramotherapy)**

弱いレーザーを新生血管に照射し(がん療法の応用で、赤外線で42度の熱を照射します)、軽度の温度上昇により、新生血管の活動を低下させます。当院では米国から必要な器具を個人輸入し、この治療法でますますの成績を得ています(現在、厚労省未認可のため保険適用はありません。自己負担となり1回の費用は7万円です)。

### **近視矯正手術 : Epi-LASIK (エピレーシック)**

Epi-LASIK(エピレーシック)もLASIK(レーシック)同様、エキシマレーザーを角膜に照射して屈折を矯正する近視矯正手術です。エピケラトームという医療機器を用い、通常のLASIK(レーシック)よりもフラップ(蓋のようなもの)をさらに薄く作ることができます。そのため、通常のレーシックでは矯正が困難であった強い近視の方や角膜の薄い方でも矯正できるようになり、手術の適応範囲も大きく広がっています。

当院では月に一度(土曜日)、近視矯正手術無料説明会を開催しております。少しでもご興味のある方はどうぞお越しください。詳しくは当院のホームページ([www.nishi-ganka.or.jp](http://www.nishi-ganka.or.jp))またはチラシを御覧ください。もちろんお電話も承ります(TEL:06-6981-1132)。  
担当者：兒玉・立道。